

自然教育園の蚊について

和田 義人*・高橋 正和*・池本 孝哉**

Mosquitoes of the Institute for Nature Study

(Insecta : Diptera)

Yoshito Wada*, Masakazu Takahashi* and Takaya Ikemoto**

1981~1983年に自然教育園の、主として落葉樹林内の蚊 (Culicidae, Diptera) の調査を行った。幼虫については、樹洞および林内に設置したプラスチック製容器を定期的に点検し、また武蔵野植物教材園のコンクリート製小プールをも不定期に調べた。成虫については、幼虫の調査を実施している時に吸血に来たものを調べた。したがって、池沼などに発生する蚊、および夜間吸血性または人以外から吸血する蚊は今回の調査対象には入っていない。

自然教育園の蚊については、国立自然教育園基礎資料第1号「国立自然教育園動物目録第1集昆虫綱」(1952)に10種が記録されている。この中、今回の調査で発見できたのは4種で、新たに3種が追加され合計13種となった。記録はあるが発見できなかった蚊の多くは、調査対象外の池沼などから発生する種である。以下に、これら13種の蚊について簡単に述べる。なお、森林性のハマダラナガスネカとシロカタヤブカが、大都會の真中にある自然教育園において発見されたことは興味深い。

(1) *Anopheles sinensis* Wiedemann シナハマダラカ

今回は未発見。幼虫は池沼、水田に普通の種。昔は多かったと思われるが、周辺の都市化に伴い、現在は自然教育園に生息しているとしても大変少ないだろう。

(2) *Orthopodomyia anopheloides* (Giles) ハマダラナガスネカ

今回の調査で初めて発見された。関東以西の暖地の樹洞に発生する森林性の種である。自然教育園でも幼虫は樹洞に見られるが、数は少ない。成虫は人畜を吸血しない。幼虫越冬する。

(3) *Culex pipiens pallens* Coquillett アカイエカ

人家周辺の汚水に極めて普通の蚊で、自然教育園では武蔵野植物教材園のコンクリート製小プールに幼虫が生息していた。

(4) *Cx. tritaeniorhynchus* Giles コガタアカイエカ

今回は未発見。シナハマダラカと同様に、幼虫は池沼、水田に普通。現在は自然教育園にいても少ないものと思われる。

(5) *Cx. hayashii hayashii* Yamada コガタクロウスカ

* 国立予防衛生研究所衛生昆虫部, Department of Medical Entomology, National Institute of Health

** 帝京大学医学部寄生虫学教室, Department of Parasitology, Teikyo University School of Medicine

今回は未発見。幼虫は小川や湧水のよどみなどの比較的きれいな水に発生する種である。カエルから吸血する。現在は自然教育園にいるとしても大変少ないものと思われる。

(6) *Cx. sasai* Kano, Nitahara and Awaya ヤマトクシヒゲカ

今回の調査で初めて発見された。関東以西の暖地に分布する蚊で、樹洞、竹切株、人工小容器などに発生する。自然教育園では樹洞とプラスチック製容器に幼虫が多数見出された。春秋に多く、8月頃には一時的に姿を消す。人畜吸血例は知られていない。

(7) *Cx. halifaxii* Theobald トラフカクイカ

今回の調査で初めて発見されたが、幼虫は人家周辺でアカイエカと共に普通に見られる種である。従来は *Cx. vorax* Edwards の学名が用いられていた。幼虫は他種の蚊幼虫を捕食する。

(8) *Aedes japonicus japonicus* (Theobald) ヤマトヤブカ

今回は未発見。幼虫は河床の岩穴に普通で、水槽、樹洞にも発生する。自然教育園に生息しているとしても極めて稀なものと思われる。

(9) *Ae. togoi* (Theobald) トウゴウヤブカ

今回は未発見。幼虫は海岸のロックプールに多発し、人工容器から発生することもある。かつて内陸部の防火用水槽などに多く見られたが、現在は分布が海岸地帯にはほぼ限られている。海岸地帯を除く東京都内には全くいなくなってしまう。したがって、現在は自然教育園には生息していない可能性が大きい。

(10) *Ae. nipponicus* LaCasse and Yamaguti シロカタヤブカ

幼虫は主に樹洞から発生する森林性の種で、人工容器でも稀に見られることがある。自然教育園では、幼虫は樹洞、プラスチック製容器で発見され、また落葉樹林内で人に吸血に来るが、個体数は多くはない。昔は *Ae. niveus* Ludlow の学名が用いられていた。

(11) *Ae. albopictus* (Skuse) ヒトスジシマカ

自然教育園に極めて普通で、幼虫は樹洞、人工容器に発生、成虫は昼間はげしく人から吸血する。成虫の発生期間は5月～11月で、8、9月が特に多い。休眠卵で越冬するが、極めて稀に幼虫で越冬することもある。

(12) *Ae. vexans nipponii* (Theobald) キンイロヤブカ

今回は未発見。幼虫は池沼、水田に普通の種である。自然教育園内には生息していても大変少ないものと思われる。

(13) *Armigeres subalbatus* (Coquillett) オオクロヤブカ

幼虫は竹切株、樹洞、汚水溜りなどの有機質に富む水に発生する。自然教育園では樹洞で幼虫が発見されたが、あまり多くはない。昔は *Ar. obturbans* (Walker) の学名が用いられていた。